Ⅲ　スクールソーシャルワーカーを活用したい事例

これから例示するのはいずれもスクールソーシャルワーカーの活用が考えられる事例です。

事例において起きている事柄は複雑で、一見しただけでは分かりにくいですが、子どもたちはいくつもの困難を重複して抱えています。表面に表れてきたことだけでなく、背景にある困難に気付くことが大切です。SSWer は、子どもや家族を理解し、状況を分析することによって、からみあった困難を解きほぐしていきます。

みなさんの学校に、このような子どもたちはいませんか？

※事例は次章のテーマのインデックスになっています。事例の下にある☞に示す「Ⅳ　テーマ別　スクールソーシャルワーカー活用」のページをご覧ください。

事例Ａ　学習の態勢が整わず、暴言や暴力がある児童

Ａは毎日登校してくるが、忘れ物が多い。朝から空腹を訴え給食のおかわりを欲しがる。落ち着いて学習に取り組めず、学力は低い。パニックになると暴言を吐き、教室を飛び出す。教員や級友に殴りかかり、物を投げるなど乱暴な行動もある。

学校はＡの保護者に電話をするが、つながりにくく、家庭訪問しても対応してもらえない。Ａの話では、時々電気が止まる。父は怪我で仕事を休んでいて、母も病院通い。父母は借金のことで度々けんかするという。

☞P.14:家庭環境　☞P.16:貧困
☞P.20:暴力行為・非行・問題行動　☞P.26:発達障害

事例Ｂ　急に不登校になり、心身の状態が心配な児童

Ｂは２か月前に転校してきたが、ここ３週間近く欠席が続いている。最初は体調不良との連絡があったが、しだいに学校からの電話に折り返さなくなった。訪問しての置手紙にも反応がなく、Ｂの様子は分からない。教室では表情が暗く、ぼーっとしていることが多かった。

前籍校からの情報では、Ｂは欠席なく登校していたものの、父母間にＤＶ（☞P.14:コラム③ドメスティックバイオレンス）があった。警察と児童相談所が家庭にかかわっていた。その後両親は離婚し、母はＢと弟妹を連れて転居したという。

☞P.22:不登校　☞P.14:家庭環境
☞P.18:児童虐待（心理的虐待）　☞P.29:その他（心身の健康）

事例Ｃ　子どもだけで過ごす時間が長い多子家庭

Ｃには中学生から幼児まで５人のきょうだいがいる。どの子も遅刻が多く、連絡なく欠席する日もある。季節外れの汚れた服を着ていて、身体や髪が臭うことがある。宿題や提出物の遅れ、教材費などの滞納がある。保護者は母１人で、連絡がとりにくい。

Ｃの話では、母は３つの仕事を掛け持ちしていて、昼も夜も不在がちだという。隣町に祖母がいるが、家事や幼い弟妹の世話は年長の子どもが担当している。（☞P.16:コラム④ヤングケアラー）食事はお金をもらいコンビニの惣菜で済ませることが多い。お金がないときは菓子などを食べている。

☞P.14:家庭環境　☞P.16:貧困
☞P.18:児童虐待（ネグレクト）

事例Ｄ　家出や自殺念慮が懸念される生徒

Ｄは繰り返し家出をする。ＳＮＳで知り合った遠方の男性に会いに行き、警察に保護された。昨年度いじめを受けていたことがあり、今のクラスにもなじめず、学習が遅れている。腹痛を訴えてときどき保健室に来る。最近、養護教諭に「生きていてもしょうがない」と話し、リストカットをしていると告白した。

保護者が祖父であること以外、家族構成等は分からない。Ｄの話では、親族でない外国籍の女性とその子も一緒に住んでいるようだ。

☞P.29:その他（心身の健康）　☞P.14:家庭環境
☞P.20:暴力行為・非行・問題行動（家出）

事例Ｅ　親からの体罰があり学校や家で盗みをする児童

Ｅは身体に傷やあざを作っている。当初Ｅは父に殴られたと話したが親には言わないでほしいと懇願した。その後も時々新しいあざを作り、聞くと「転んだ」と言う。教室で物やお金の盗難が起きた際にＥが疑われたが、「知らない」と言い通した。

学校が母に聞いたところ、Ｅはときどき家のお金を盗るので困っていると言う。注意しても言い訳や嘘が多い。反省を促すため、父は体罰をする。痛い思いをさせるのは躾であり、Ｅも自分が悪いと承知しているはずだと話した。

☞P.18:児童虐待（身体的虐待）
☞P.20:暴力行為・非行・問題行動（盗み）

事例Ｆ　療育等を受けないまま高校生になった発達障害のある生徒

Ｆは小学校に入学してすぐ、学校から受診を勧められ、発達障害の診断を受けた。その後両親は DV で離婚、子を引き取った母親は職場のリストラ、実家の破産など、経済的に追い込まれ、Ｆは通院できず療育も受けなかった。中学校では友人とのトラブルや、いじめ、不登校を経験した後、定時制高校に入学。極めて学力が低く、問題行動も多かったが、学校側の丁寧な対応で登校を続けられた。しかし、卒業を前に就職したくないと言い出し、母親も学校も困ってしまった。

☞P.26:発達障害　☞P.16:貧困
☞P.22:不登校　☞P.28:その他（いじめ）

事例Ｇ　外国にルーツがあり、中学校に進んでから欠席が増えた生徒

Ｇは外国で生まれ、来日して数年経つ。会話には困らないが、進級するにつれて学習についていけなくなった。日本語能力の問題か発達障害によるものか分からない。欠席が増えてきて、学校は今後のことを保護者と相談したいが連絡が取りにくい。

Ｇからの話では、勉強は苦手だが学校は好き。両親は仕事で忙しく子どもの学習には無関心らしい。介護が必要な家族の世話、通院時の通訳などを頼まれるために学校を欠席しているが、本当は部活動もしたいし、高校に進学したいと言う。

☞P.24:外国とつながり　☞P.18:児童虐待（ネグレクト）
☞P.22:不登校　☞P.26:発達障害

事例Ｈ　学校生活からドロップアウトし非行に陥った生徒

Ｈは他校の生徒とけんかをして相手を大怪我させた。不登校で、校外で知り合った友達や先輩とよく遊んでいた。今回その仲間に誘われて集団暴行に加わったようだ。小学生のころ父と離別し、母（外国籍）と弟妹との家庭。小学校の教員によれば、母子家庭になってから経済的には苦しい様子だったが、当時は休まず登校し、家族思いの優しい子だったという。中学校入学後、外見を理由にいじめを受けたのを契機に次第に欠席が増えた。万引きや喫煙での補導歴がある。

☞P.20:暴力行為・非行・問題行動　☞P.24:外国とつながり
☞P.22:不登校　☞P.28:その他（いじめ）　☞P.16:貧困